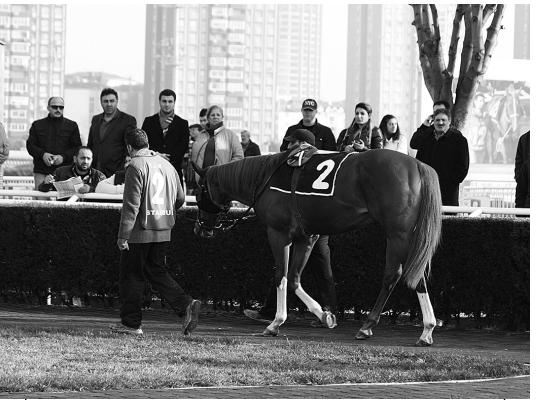




イズミル競馬場のスタンドもなかなか立派



パドックで出走馬を吟味する観客たち



## イスタンブールのレース風景

# 世界旅打ち気分

## ●第31回・イスタンブールとイズミル

須田鷹雄

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>  
グリーンファーム会報#2021年1月号  
をご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

筆者が行つた」とあるトルコの競馬場、もうひとつはイズミル競馬場である。イズミルはトルコから見ると南西600キロほどのところにある都市。行く場合は飛行機で行くことになる。

我々は場長室に通され、競馬場幹部と食事をし、業務エリ亞を撮影して、続いては一般ファンが馬券を買つて、いるようなエリ亞を撮影……といつ」となつたのだが、競馬場広報の女性が「私は何年も務めているが、あの部屋には入つたことがない」「正直、客層として

怖い」と言いたした  
そんなこといつても競馬場の中  
だから危険ということはないだろ  
う……と思つていたのだが入つてみ  
るとあまりウエルカムではない雰囲

いじ感じのじんだり。それもそのはず、トル<sup>W</sup>は馬券の控除率が50%なのだ。払い戻される割合で考えると日本の70~80%→トル<sup>W</sup>50%なのだから、買えば買うほど深みにはまる。

ショットと同じくらいのサイズのものがそこへ並んでいた。トルコはイスラム国だが飲酒もギャンブルも許容されている。とはいえさすがにカジノはないので、賭けの需要は競馬へ向かう。馬券は自国のレースに賭けるものはもちろん、海外のレースに対するサイマル発売も早くから行われており、日本の「海外馬券」よりも先輩だ。トルクの競馬場のうち、筆者が行つたことのあるものは2つ。まずはイスタンブール・ヴエリエフエンティ競馬場だ。1周2020メートルの芝コースと、1870mのポリトラックコースを備える、かなり立派な競馬場である。トルコ自体はペルト2国だが、この競馬場で行われるトップカブトロフィーとボスボラスカップは国際G2であり、賞金が

日本で話題に上ることはあまりないが、トルコは隠れた競馬大国である。トルコ国内には9つの競馬場があり、場外馬券売り場の数は100単位どころか4ケタとも言われている。トルコジョッキークラブ直営の場外馬券売り場もあるが、個人オーナーの運営する小規模場外が多く、小さなりティエルショップと同じくらいのサイズのものがそこらじゅうにある。

馬場の前にミニバスが来たら飛び乗つてもいい。どこ行きかは分からなくともどこかで地下鉄駅か、主要バス停行きの大型バスが通る幹線道路に出る。いまはスマホとGPSで自分の位置が分かるため、迷うことではないはずだ。ちなみに外国人には席を譲つてくれたりするが、現地女性が乗つてきたら席を譲るとよい。向こうのマナーが分かっている観光客ということで車内が歓迎ムードになる。

い。ただし、基本的にトルコで馬券を本格的に買う」とはおすすめしない。その理由は、オッズ板を見れば分かる。単勝オッズをみただけで、どの馬もいまひとつ配当がつかない。